独立歩兵第二百二四大隊略歴

年月日	概要
	部隊長　第一代陸軍少佐　樋原豊一、第二代陸軍少佐　米川　忍
	部隊編成　部隊は歩兵第百五十一連隊補充隊に於て独立歩兵第二百二四大隊を編成下令せられ、
昭九、一九	編成を完結し爾後支那派遣、支那派遣、
	初代樋原大隊長指揮の下大隊は昭一九、一、二二久居出発門司港より玄海の波濤を蹴って中支揚浦口に上陸す。
三六	京漢作戦及亳宝地区作戦
	列車に依り北支那山東省済寧に輸送せられ同地に於て京漢作戦準備の為猛訓練を実施し一九、四、一八　京漢作戦に参加す。引続き六、一　六、一六　亳宝地区作戦に参加し夫々多大効果を収め同月一七日終了す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

移駐

七一七　内蒙古平地泉集結のため河南省陝県出発八月七日平地泉に集結す

八一　編成改正

一軍令陸甲第七九号に依り編成改正に着手し同月十五日編成改正完結せり

大隊編成人員二五二　日本馬二六頭、大陸馬五二二頭

防疫及警備任務の継承

大隊は編成改正完結と同地に京包線（蒙疆西部地区）の防疫に任じつゝありたる第一二野戦補給廠より防疫任務の継承を命ぜられ八一九　平地泉出発鉄道輸送に依り東大社に前進し

八一九　正午を以て防疫及警備任務を継承し歩兵第五五連隊の警備に任ず

大隊の兵力配置左の如し

東大社　大隊本部　第一中隊　第五中隊

故周鎮中隊　歩兵砲中隊

召君墳　第二中隊

2319

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中隊　第三中隊
同　第四中隊

兵力抽出

第参編第四五号及第参編第四三号に基き、独立混成第九二旅団臨時編成のため大隊より建制の中隊の差出を命ぜられ且抽出後の補填中隊は編成を命ぜらる、補填中隊は各中隊より抽出、二月二九日編成完結、

同日二十八日独立歩兵第六百一九大隊に転属せしむ

部隊長異動

初代大隊長　陸軍少佐梶原豊一は昭二、三、三〇附独立警備第二四大隊長として転任し後任として第百十八師団参謀附陸軍大尉米川忍独立歩兵第二百二四大隊長に補せらる、

兵力の抽出及編成

独立警備第二十四大隊編成の為大隊より大隊本部並に第二中隊は夫々建制の侭抽出せられ　新に大隊本部第二中隊を編成す

昭三、三、三〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、四、一五	防疫任務警備交代 殺作第甲第二五号に基き新作戦地に進駐の為、警備を交代し自隊に集結を命ぜらる。 東大社周辺地区の防疫並に警備任務を独立第四警備隊に引継ぎ東大社を撤収し同月同日自隊に集結を完了す。
四、二四	光号作戦準備 新作戦地に転進のため
五、三	鉄道輸送に依り出発 中支那江蘇省蘇州に到着光号作戦準備のため陣地構築及訓練に従事す。
八、一一	秋季作戦準備 秋季作戦参加のため中支那立蘇省蘇州を出発、同月一一日蒙疆張家口に到着同地附近の警備に任ず。同月一五日停戦に関する詔書を拝聴す。
同月二一	終戦后の状況 河北省石山附近の警備のため張家口を撤収し北支那特別警備隊長の指揮下に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

入り唐山附近の警備に任ず

九、二九　武装解除並に特殊勤務

二、二、一〇　寨上に駐屯し同地附近の警備に任しありしが

唐山進駐の米軍海兵隊に依り武装解除せらる、

二、一八　天津に集結を命ぜらる、内地還送迄米軍の特殊勤務に服す、

復員

三、二五　大隊は帰国のため米軍上陸用舟艇に依り河北省唐沽港出発

三、三〇　山口県仙崎港に上陸　四月　日復員完結せり

内地帰還時本部隊と分離し一部部隊復員した経丁は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第九旅団独立歩兵第二五大隊略歴

陸軍少佐　山田一郎

年月日	概要
	編成完結
昭五、一一、一〇	大阪歩兵第三七連隊補充隊に於て編成完結
	編成装備の概要（省略）
	行動
二、二一	奈良出発
二、二七	門司港出発
二、二八	釜山上陸
三、六	山海関通過
三、七	山東省烟台着
四、一八	宗陵作戦準備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四一九 八三	京漢作戦参加
七八	部隊長　山田一郎転属す
八四	編成改正の為蒙疆に向け出発
八一三	平地泉到着
	編成改正
昭五八一	軍令陸甲第七九号に基き臨時編成下令
	部隊名　第百十八師団独立歩兵第二百二五大隊
	部隊長官氏名　陸軍少佐　山重太郎
八一五	編成完結　平地泉に於て編成完結
	編成装備の概要（省略）
	行動の概要
昭五八一九 五四二三	蒙疆安北地区警備
四二四	包頭出発中支に移動
九一 八五	光号作戦準備

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八一四	蒙疆地区整備の為新京市出発
〃	停戦詔書発布
三五、八、三一	天津県附近警備
一、一七	天津市に於て武装解除
四、二一	復員輸送の為塘沽港出発
四、一九	佐世保港上陸
五、九	復員完結

内地帰還時本部と分離し一部部隊復員した処ノ中は省略す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二二六大隊略歴

陸軍少佐　家森清

年月日	摘要
部隊名	独立歩兵第二二六大隊
部隊長	初代　昭五、一一、一六　陸軍中佐　浮林貞
	二代　昭五、一一、九　三、九、六　〃　少佐　家森清
昭八、一三、一〇	昭一八年　軍令陸甲第一一五号に依り独立歩兵第二二六大隊の編成下令せらる。
五、一、五	和歌山市歩兵第六一　連隊補充隊に於て編成業務開始
五、一一、6	編成完結し独立歩兵第九旅団の隷下に入る。
	当時の編制概要左の如し
	本部、五中隊、一歩兵宿隊、一通信隊
	主要兵器、四一式山砲　三門
二、一九	北支派遣の為和歌山市出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、二六　門司港出帆
三、九　北支那山東省滕県に到着作戦準備
　　四、一七日迄に重機関銃六銃を受領し機関銃隊を編組す、又小銃軽機関銃擲弾筒及迫撃砲二門其他を受領し兵器装備を完成す、
三、一四　大隊行李要員其の他一二五名を受領す
四、一八～七、二七　京漢作戦及西北河南作戦に参加
八、一　昭一九年軍令陸甲第七九号に基り第百十八師団臨時編成下令せらる、
八、九　綏遠省集結　張家口平地泉に集結
八、一五　第一中隊を建制の個独立歩兵第四百一大隊に、通信班を建制の個旅団通信隊に行李主力を師団輜重隊に、夫々転属せし又補充人員約百名を受領し大隊内より人員を選めて新に第一中隊を編成す又機関銃隊を機関銃中隊となし歩兵砲隊の四一式山砲一門を返納し十一年式平射歩兵砲二門を受領して歩兵砲中隊に改編し臨時編成を完結し第百十八師団歩兵第八十九旅団の隷下に入る
九、八、一九　大隊本部を綏遠省地区張地区地に駐屯　部隊を地区地区張清水河張薩拉斉張及準
三、四、四

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	呼尔旗に分散配置し警備に任ず
五、一〇、七	補充兵約百名を受領す
三、三、二八	昭十九年度 徴集現役兵約三四〇名を受領す
三、一、一九	大隊長 陸軍中佐厚林黄才十六師団司令部附に補せられ駐蒙軍別宮陸軍少佐家恭眉 独立歩兵第二二六大隊長に補せらる
三、二、二八	第一二軍要員として將校以下約七〇名独立混成第九二旅団要員として將校以下約三〇名を夫々転出せしむ
三、一、五	第一一八師団工兵隊要員として將校以下約七〇名を転出せしむ
三、三、〇	第四独立警備隊編成に方り第一中隊を母体として独立警備歩兵第二四大隊に転属せしめ大隊内より人員を集めて新に第一中隊を編成す
三、三、一	補充兵五〇名を受領す
四、五	独立警備歩兵第二十一大隊と警備を交代し拉克拉附近出発中支に向う
五、一、八、一〇	中支江蘇省大倉県岳王市附近に在りて老号作戦準備及同地附近の警備
八、一一	蒙疆に転団を命ぜられ兵王市出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、一四	停戦協書発布
八、一五	張家口到着同地附近警備
昭一〇、八、七	天鎮―大同間京包線鉄道警備八月二五日第四独立警備隊の指揮に入る
〃 八、三一	
八、二五	復員下令
昭一〇、九、一	山西省大同県大同に駐留
一〇、一二、一	大隊長 家泰清陸軍中佐に進級
四、一	帰還の為大同出発
四、六	塘沽出帆
五、一六	山口県仙崎港上陸主力の復員実施
六、二	復員完結

復員時の人員 左の如し

内地に於ける除隊召集解除人員	八七五名
北支 〃 現地除隊人員	八名
生死不明人員	三三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

北支に残留　二〇名

編成以来の死亡者　一一四名

内地帰還時本隊と分離し一部部隊復員した略ナは省略す.

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団歩兵第九〇旅団司令部

陸軍少尉　村田博　以下十名

年月日	概要
昭三、一一一	LST指揮班要員として天津貨物廠に集合
三、一九	塘沽出帆
三、一四	佐世保沖着
三、一九	〃　出帆
三、二四	塘沽上陸
三、二五	天津着
三、七	内地帰還の為塘沽出帆
三、一三	佐世保上陸

2331

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第九十旅団司令部

陸軍技術曹長　高橋　曉　以下一〇名

年月日	概要
昭二、一、三	LST指揮班要員として天津貨物廠に集合
一、二九	塘沽出帆
二、三	佐世保沖着
二、一九	佐世保出帆
二、二四	塘沽上陸
二、二九	天津着
三、七	内地帰還のため塘沽出帆
三、一三	佐世保上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第九十旅団司令部

陸軍少尉　福井浩太郎

年月日	摘要
昭二、四、二〇	部隊主力と分離後の行動
	義挺容疑のため元軍に残留中の処
五、一	解除となり輸送第一三四大隊指揮官
	丸山大尉の指揮に入り五月一二日橋頭港出発　五月二六日
	佐世保上陸す。
	昭二一、九、三一　陸軍少尉　福井浩太郎

2333

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三九二大隊

陸軍中尉　藤井昌夫

年月日	概要
昭二〇、三、一四	藤井中尉以下將校一、下士官二、兵一八、ほか軍貨物故出発
	同日廣島港より LST 八十四にて邦人一二八人乗る
昭二〇、三、一九	佐世保に上陸す
〃 三、二二	山口県軍事以下二〇名復員す
〃 三、二七	藤井中尉は後務整理のため二日市復員本部に後留す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第三百九二大隊

陸軍中尉　南喜本　刑徳　発信

年月日	概要
昭二、一、二八	北支引揚邦人輸送救護班要員を命ぜられ天津北支那貨物廠に集結
二、九	引揚邦人CL第七〇大隊の救護班（LST67）として天津出発同日塘沽港出発
二、一四	佐世保港着
二、一九	佐古保港出発
二、二四	塘沽港上陸
二、二五	天津北支那貨物廠着
三、七	復員のため天津出発
三、一三	佐古保港上陸同日復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百一大隊略歴

陸軍大尉　吉田秀雄

年月日	概要
	M.98 大隊編成要員として昭二、三、一三復員者、
	將校四名、下士官二三名　兵百十名　計百三十七名
	（内兵一名出発の際病気のため部隊主力に残置）百三六名　中国田文忠園
	下の人員及荷物検査を受くる為天津法政に集結
昭二、三、一四	人員及荷物検査終了後天津貨物廠に集結
〃三、二〇	中国側荷物検査を受け同日塘沽に向け出発
	同日　LST　Q〇三七二　上海出発
三、三、二五	佐世保港に入港
	戦犯者無し　事故無し
	人員区分（省略）
三、	残務整理者氏名　陸軍大尉　吉田秀雄
	残務整理を終了し除隊帰国す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四〇一大隊第一

陸軍中尉　長嶋三千夫　以下八名

年月日	概要
昭三、一、三	在留邦人輸送指揮班員として天津貨物廠に集結
一、元	貨物廠出発
〃	塘沽出発
二、三	佐世保入港
二、一九	同港出帆
二、二三	塘沽入港
二、二四	上陸同地出発
二、二五	貨物廠着
三、七	帰還のため貨物廠出発
〃	塘沽出港
三、一一	佐世保入港
三、一三	浦頭上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団独立歩兵第四百一大隊の一部恩賞

部隊長　陸軍少佐　須藤靖二

年月日	概要
	一、倘井少尉以下二一名ムST特輯班要員として三月二十一日天津貨物廠に集結、同日部隊主力と分離す。 二、四月一日　倘井少尉以下二一名（將校一、下士官二、兵十八）はムSTに依り塘沽港出帆 三、四月六日　佐世保上陸　異状なく夫々帰郷せり 四、倘井少尉は残務整理者として四月八日　二日市に至り事務処理に任じ四月　日任務終了帰郷す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百一大隊墨厂

部隊長　陸軍少佐　須藤清二

年月日	概要
	通称号　恵第一五六三九部隊
	編成完結の状況
昭五、八、一五	蒙疆大同省大同に於て左記部隊の一部を基幹として編成を完結せり
	独立歩兵　第一大隊
	独立歩兵　第五大隊
	独立歩兵　第二三六隊
	独立歩兵　第二二六隊
	編成定員
	将校四四、准士官　下士官一四四　兵一〇四九　計一二三三名
	但し編成完結時の概数百名の逃亡者あり
	行動の概要及其の日時

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭五、八、一八	蒙疆大同省朔県地区の警備
〃二、四、二二	
二、四、二二	中支派遣のため朔県地区の警備を独立警備第二三大隊と交代し蒙疆泉州県平地泉出発
四、二二	大隊の半部兵力を以て中華民国江蘇省嘉定県陸渡橋地区に主力を以て同省無錫県惠山鎮地区に在りて同地区の警備並に陣地構築
八、一二	
二、八、一三	蒙疆地区に転進の為出発車中にて停戦詔書を聞く。
二、四、六	蒙疆宣化省張家口県地区に於て軍隊邦人の撤退援護の為河北省天津附近に在りて警備並に終戦業務に従事す。部隊の逐次復員を実施す。
三、四、二一	大隊主力河北省塘沽港出帆
四、一九	長崎県佐世保港入港
五、	復員完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

兵力

（省略）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百二大隊 畧厂

陸軍大尉 春木屋幸市

年月日	概要
	編成着手
	昭和十九年軍令陸甲第七九号及蒙参甲第六一八号に基き独立歩兵第四百二大隊編成の為昭一九、七、三日蒙疆大同に於て編成業務に着手せり。
	第一代大隊長として瀬井第八口境守備隊より到着せる陸軍大尉春木屋幸市を始め名古屋第三師団より独立混成第二旅団（張家口）に転属要員として海路輸送青島に上陸し在りたる下士官以下三三六名は当部隊編成要員として充当せられ、七、三一 大同に到着せり同日独立歩兵第十二連隊南方転進に際し残置し在りたる下士官以下四三一名大同に於て編入せらる。（分隊置九一名入隊一四九名、其他一 実在員一九〇名なり）
八、二	独立混成第九旅団（天津）及独立歩兵第二旅団（深県）第十二野戦補充隊（

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（尊和）より傅教以下五大名

八・七　河南作戦に参加しありたる独立歩兵第九旅団より傅教以下二四三名、

八・一三　引続き同旅団より傅教以下二五五名、其他の部隊より八一名夫々到着し人員共予定の如く編成地大同に集結を完了編入す。

編成完結

八・一五　蒙疆大同兵営に於て独立歩兵第四百二大隊の編成全く完結し十一時三〇分より駐蒙軍司令官陸軍中将上月良夫、及第百十八師団長内田銀之助臨場の下に厳粛なる開兵式を挙行せり。

大隊の編成人員一四〇七名馬匹日本馬三六頭、大陸馬四二頭

警備任務の継承

大隊は編成完結と同時に京包線（蒙疆西部地区）の防衛に任じつゝありたる歩兵第九大旅団との防衛任務の継承を命ぜられ八月十八日より翌十九日に亘り防衛及警備任務の継承を了し該地区の警備に任ず。

討伐戦数十回を実施したるも略す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、二、一六

隊の編成改正

歩兵第一、二、三、四、五号及臨第一、二、三号に基き独立混成第九二旅団臨時編成の為大隊より建制第五中隊の差出を命ぜられ且転出後の補填を命ぜらる。

二、二、八

建制第五中隊を転出せしむる為編成に着手し、

編成完結同独立歩兵第六百十九大隊上中隊長斉藤幸治中尉以下二三三名集屯せしむ。

二、二、一〇

補填中隊（第五中隊）の編成に着手し各中隊より抽出

二、二、一五

編成完結、中隊長陸軍中尉外貨四郎以下一九七名

編成改正後の大隊の人員一五四〇名

警備交代及撤収

大隊は恵作第甲第二五号に基き新作戦地に転進のため警備を交代し平地泉に集結を命ぜらる。低警一九二二大隊に引継四月十日全部隊の集結を平地泉に完了す。

老号作戦準備の為輸送

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四二四	大隊は新作戦地に転進のため列車輸送により平地泉出発
四三〇	中支江蘇省蘇州に到着
五一一	江蘇省嘉定県馬家巷及太倉県劉河鎮に到着す。
	光号作戦準備
	大隊は配備展開後光号作戦準備の為全兵力を以て昼夜兼行陣地構築主要道路の補修訓練に従事す。
	秋季作戦準備
昭五八一三	秋季作戦参加のため中支江蘇省嘉定県馬家巷を出発し
八一五	南京に於て停戦に関する詔書を拝聴す。
八二四	塘沽に到着、独立混成第九旅団長の指揮下に下り天津―宝台間の鉄道沿線地区の警備に任ず。
九二九	該地の警備を独立歩兵第八九旅団に引継ぎ天津に到着、爾後第百十八師団の

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の直轄となり天津南部地区の警備並に自営農場警護に任ず	
武装解除 天津日本中学校に於て北支天津進駐米軍海兵隊司令官に依り武装を解除せらる。	昭三〇、二、二六
米軍特殊動務 米軍に対する特殊動務に服す。	昭三〇、一〇、二 〜三三、三、三
復員の状況 大隊は夫々一部を、 主力を米軍上陸用舟艇により北支塘沽出帆、佐世保港上陸、同日現役満期除隊及召集解除、 内地帰還時本部隊と分離し一部々隊復員した隊丁は省略す。	昭三、一三、一 〜一七 三、二七

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四〇三大隊略歴

陸軍中尉　大田盛雄

年月日	概要
昭三、一、八	輸送救護班指揮班要員として北支那野戦貨物廠に集結
一、二八	北支那塘沽出帆
二、二	佐世保入港
二、一九	同港出港
二、二三	塘沽入港
二、二四	上陸同地出発
二、二九	貨物廠到着
三、七	帰還のため貨物廠出発塘沽出帆
三、一三	佐世保上陸
三、一四	召集解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

才百十八師団独立歩兵才四三大隊史

陸軍大尉　竹本　豊

年月日	摘要
	部隊長官氏名 才一代　陸軍大尉　高橋鶴美 才二代　〃　竹本豊
昭五、八、一五	編成完結次第 軍令陸甲才七九号に依り蒙疆大同北兵営に於て独立歩兵才四三大隊の編成完結し同月一〇時三〇分より駐蒙軍司令官陸軍中将上月良夫並陸軍中将内田銀之助臨場の下に厳粛なる開兵式を挙行せり 大隊編成人員一四一七名、馬匹、日本馬三六頭、大陸馬四二頭 警備任務の継承 大隊は編成完結と同時に大同周辺地区の防衛に任じつゝありたる歩兵才六大

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	徹困との防衛任務の継承を命ぜられ大隊主力は八月十五日以後大同北兵営に位置し大同県大同炭坑一部は石玉堡領左雲に位置し大同地区鉄道沿線の防衛及警備任務を継承該地附近の警備に任ず。
	警備交代並撤収
	大隊は更作命甲第二五号に基き新作戦地に進駐の為警備を交替し大同地区に集結を命ぜらる。
昭三、四、二五	大同周辺地区の防衛及警備任務を独立第四警備隊に引継ぎを完了す。
四、二〇	老号作戦準備
四二六	老号作戦参加の為北支駐屯大同を貨車輸送に依り出発す。
八、一三	中支江蘇省太倉付近の警備並陣地構築に任ず。
	秋季作戦準備
	秋季作戦参加の為中支江蘇省太倉を出発す八月十五日南京戦に於て停戦に関する詔書を拝聴す、八月二三日北支天津に到着独立混成第九旅団長の指

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭二〇、一二、二六	指下に入り天津特別市の警備に任ず。
	武装解除の状況
	北支天津特別市海光寺兵舎に於て北支天津進駐米軍海兵隊司令官に依り武装を解除せらる。
昭二〇、一〇、一～二二、三、二〇	米軍特殊勤務状況
	米軍に対する特種勤務に服す。
昭二〇、二、二三	復員の状況
	大隊は帰国の為、米軍上陸用舟艇に依り北支天津塘沽港出帆
三、二七	佐世保港上陸同日全員除隊召集解除を行い復員を完結す。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二八師団独撃砲隊第三中隊略歴

年月日	摘要
昭二〇、三、九	昭二十年軍令陸甲第十八号に依り第二八師団独撃砲隊第三中隊編成下令
三、一五	編成完結
三、一九 四、二二	蒙疆地区包頭附近の警備（主力は大同）
四、二三	米軍作戦準備のため蒙疆包頭出発
五、一	中支江蘇省大倉県大倉に到着
九、二 八、二二	第一三軍隷下にありて大東亜戦役支那方面動務に従事
八、一三	崑山出発
八、一七	蒙疆張家口着
八、一八 八、二五	蒙疆地区警備
八、二六 九、一	南口附近の警備
九、二 一〇、二四	河北省唐山附近の警備に任じ接収を受く

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一一、二五	（主力は河北省漢口）
一一、二七	内地帰還のため第三中隊のみ天津に集結
一二、一	塘沽出発
	佐世保に上陸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団直轄砲隊思厂

陸軍大尉　原　欣平

年月日	概要
	通称号　思第一五七五六部隊
昭三六、三、二五	編成年月日
	編成地　北支蒙疆大同
	部隊長　陸軍大尉　原　欣平
	先任者官氏名（LST教育班要員）
	陸軍少尉　横大路　俊美
昭三、一、二九	教育班要員編成年月日
	教育班編成人員
	陸軍少尉　横大路　俊美　以下三名

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭三、一、二九	行動概要
	第百十八師団命令に依り陸軍少尉横大路俊美以下二一名救護班要員の編成に入る。
一、二九	河北省天津貨物廠内に集結
三、六	救護班要員（内地帰還）の為塘沽出発
三、一一	佐世保上陸
〃	除隊召集解除
	入院患者、生死不明者、死亡者なし
	其の他特記事項なし
	我々整理は主力我々整理に依托し全員上陸当日帰郷

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団迫撃砲隊略歴

年月日	概要
	通称号　第百十八迫撃砲隊
	編成地
昭三、三、一五	北支那蒙疆大同
	部隊長　陸軍大尉　原俊平
	先任者官氏名（故護班要員）
	陸軍少尉　鬼頭幸一郎
昭三、一、二九	故護班要員編成年月日
	故護班編成人員
	陸軍少尉　鬼頭幸一郎以下三一名
	行動概要
昭三、一、二九	第百十八師団命令に依り陸軍少尉　鬼頭幸一郎以下三一名故護班要員の編

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一二九	亦に入る
三、一	河北省天津貨物廠内に集結
三、五	救護班要員（内地帰還）の為廈門出帆
三、九	佐世保上陸
	除隊召集解除
	入院患者、生死不明者、死亡者なし
	其の他特記事項なし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団工兵隊略歴

年月日	概要
	部隊名　第百十八師団工兵隊
	部隊長　陸軍大尉　田中一博
	編成完結の状況
昭五.八	軍令陸甲第七九号に依り蒙疆大同に於て第百十八師団編成さる同編成に於て師団工兵隊は陸軍中尉木村尚文を隊長とする、一ヶ中隊にして蒙疆大同に在りて教育訓練に従事すると共に大同城外平旺附近の警備に任じありたり。
昭五.三.一	軍令陸甲第十八号に依り第百十八師団工兵隊編成改正下令に依り同日編成業務に着手す。工兵隊長として独立歩兵第九〇旅団司令部より陸軍大尉田中一博、師団内各独立大隊輜重隊、師団野戰病院同衛生廠より編成改正定員として将校以下着隊せり。兵器、器械乗馬の充当整備も着々進捗し昭和二〇年三月十五日一〇時大同城

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外平壌に於て師団長陸軍中将内田銀之助閣下臨場の下に閲兵式を挙行同日編成を完結す。当時師団内各大隊に於いて補充行動象徴なりし影響を受け隊長の掌理せし人員馬匹は編成定員の八割なり編成人員は四五名馬七三頭　将校長員左の如し。

大隊長	陸軍大尉	田中一博
工兵隊副官	〃少尉	鈴木左太郎
工兵隊附	〃中尉	木村尚文
同	同	田中庄次郎
同	同	市川清
同	陸軍軍医少尉	今庵鎮夫
同	陸軍経理部見習	中島利夫
同	獣医少尉	高原周
同	陸軍中尉	城代圭二
同	〃少尉	中村由郎
同	〃	古屋誠一
同	〃	法山寛三
同	〃	江島義光

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同	見習士官	堀田 璡
同	同	佐藤倉太
同	同	岩崎国光
同	同	鎬木次十郎
同	同	古野文生
同	同	内橋誠

四一〇

行動の概要

編成完結後教育訓練に従事

光号作戦準備のため大同兵営発輸送列車に依り中支に向け前進す二一日、中支江蘇省昆山着　部隊前進路補修の目的を以て崑山、太倉、劉河鎮行軍及陽水沈畔地形の偵察を為す四月以降策応の為め左の如く部隊を配置す。

本部隊及器械少隊　太倉
第一中隊　右地区隊
第二中隊　同　右
第三中隊　戦斗司令所

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、一二

新状勢に処する為め北支転進を余せられ十四日三都田となり崑山より前進す

八、一五

主力は天津着歩兵張家口に前進せる加二中隊を駐屯天津に於て復員の為め業務に依り昭和三年三月二七日第隊全員内地に復員す

昭三、三、二七

部隊全員内地に復員す

佐世保上陸

兵力

將校一九名　下士官　兵七六六名

計七八五名（馬匹八四頭）

内地帰還時本隊と分離し一部部隊復員した為略ア は省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百十八師団通信隊要覧

陸軍少佐　泉鎮四八

年月日	概要
	編成完結の状況
昭五八一	軍令陸甲第七九号
八一五	完結年月日
	編成場所　蒙疆大同
	編成基幹部隊
	昭和十九年春以来河南作戦に参加し作戦終了と共に蒙疆に転進しありたる独立歩兵第九旅団通信隊
	人員装備の概要
	一、人員　将校以下　三三六名
	二、馬匹　四四頭
	主要兵器

2361

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

九二式電話機　二四
九二式十二回線交換機　三
軍　橋　一二〇
九四式二一号甲無線機　一八
九四式二一号丙無線機　三
三九式駱駝車輌　三一
一五式駱駝車輓馬具　三一
将校乗馬具　一三
九五式軍刀　九
三八式騎銃　三九八
三〇式銃剣　三〇八

編成

1、本部
2、第一中隊
3、第二中隊

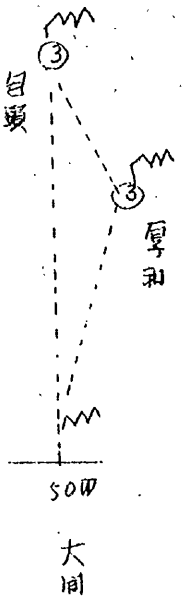
行動の概要及目的

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭五・八・一五

警備継承

編成完結と共に第六三師団通信隊より諸般の事項を引継き通信連絡及調査通信に任ず



一三一五

第二次厚包作戦

重要系列八戦区副長官補作義に屈する游擊遊撃のため昭五、厚包作戦開始せらるや、師団戦斗司令所に伴い大同、厚和、武川、烏蘭、不浪、哈良合地、察素齊、地点地に推進し

作戦終了と共に大同に復帰す

上海附近に転進準備並に編成改正

大平洋上敵米軍の進攻漸日に猛烈を加へ

臨時太平洋考に転進せしむ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	師団は上海附近三角地帯に転進第十三軍司令官の指揮に入り米軍援蒋の敵
	要衝作戦（光号作戦）参加の命を受く
三、三一	師団の分身第四独立警備隊編成完結と共に現任務を中止し大同に在りて光
	号作戦準備に邁進保安を期す
四、一九	師団主力第四軍と共に大同出発準備線を南下四、二三予想作戦地江蘇省崑山に
	到着
五、五	師団、戦斗司令所大倉推進に伴い戦斗司令所、戦斗指揮所水際陣地間の有
	線通信網を構成確保す
	再度敵砲転進
八、九	八一庭対日宣戦の報伝はるや急遽全力を以て再度駐蒙軍管内に復帰の命を受
	く
八、一〇	光号作戦準備の任を終て隣接第六九師団に現地八月十一日崑山発八一四日
	張家口に到着、駐蒙司令官の指揮に入る
終戦	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

終戦后の行動

一、天津地区の警備

駐蒙軍作命に基き八、二一日張家口撤退八、二六天津地区要塞防衛の命を受け八、三〇日夜天津到着独立混成第二旅団通信隊の任務継承

一方終戦後天津駐屯の第六方面軍第五通信隊の一部を掌握及其残部を指揮下に入うしめ平津地区有線無線通信連絡に任ず

二、被武装解除及其の後

天津居留米軍第三水陸隊司令ロッキー少将の命令、海兵第一師団ベック少佐に依り投降を為さしめられ武装解除を受く

通信連絡に任じつつ、一部人員を以て米軍に対する作業員を差出し逐次帰国復員を早さしむ

主力は昭二一、四、二二其の任を独立歩兵第二旅団通信隊に継承、四、一四塘沽出発

四月二十一日　佐世保上陸　復員式を終了せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

復員時に於ける内訳左の如し

総人員　八〇一名

現地除隊召集解除　一〇名

内地　〃　五二一名

死亡　六名

疾病　二四三名

生死不明　二名

入院　一七名

残留　二名

内地帰還時本隊と分離し一部部隊復員した総ては省略す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp